

地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和2年4月21日)

1 災害応急対策協定の変更について

【技術企画課】……1ページ

2 第12回米子駅南北自由通路等整備事業協議会の概要について

【道路建設課】……2ページ

3 気高海岸侵食対策の検討状況について

【河川課】……4ページ

4 大呂地区地すべりの活動及び対応について

【治山砂防課】……5ページ

県土整備部

災害応急対策協定の変更について

令和2年4月21日
技術企画課

建設業関係の2協会及び建設関係コンサルタントの2協会のうち、3協会と締結している「災害応急対策協定」について、変更協定を締結したので報告します。

なお、その他1協会とも4月中に変更協定を締結する予定です。

1 変更の経緯及び内容

- ・ これまでの協定では、災害救助法や労災での補償が少額（死亡で1千万円程度）であること、また労災では社長本人には適用されないことなどから、協会から県に対し補償内容を充実するよう要望があった。
- ・ このため、これまでの補償に上乗せして、県が別途加入する民間傷害保険の補償を追加することとした。
- ・ なお、災害応急対策の補償に民間傷害保険を活用するのは全国では鳥取県が初めてである（全国建設業協会からの聞き取りによる。）。

2 上乗せする保険の内容

補償の制度等	既存の補償		上乗せ補償
	災害救助法	労災	民間保険
死亡保障	1,000万円程度	1,000万円程度	5,000万円

※当初80人・1カ月想定で年間契約（60万円程度）し、実績（人数・期間）で精算する。年間に実績がないときは、1000円の手数料を支払い翌年に繰り越す。

3 県土整備部が所管する災害応急対策協定

協会名	協定の内容	締結日	変更日
鳥取県建設業協会	・ 土砂、竹木や崩壊した建築物等の除去 ・ 道路、河川等の公共土木施設の機能確保 ・ 建設資材等の調達、輸送 ・ 技術者の派遣	H13. 2. 2	R2. 4. 1
鳥取県造園建設業協会	・ 倒木等の除去 ・ 災害情報の連絡	H16. 10. 1	R2. 4. 7
鳥取県測量設計業協会	・ 調査、設計、測量等	H21. 1. 10	R2. 4. 3
建設コンサルタント協会中国支部	・ 調査、設計、測量等	H26. 7. 2	(予定) 4月中

第12回米子駅南北自由通路等整備事業協議会の概要について

令和2年4月21日
道 路 建 設 課

令和2年3月27日（金）に開催した「第12回米子駅南北自由通路等整備事業協議会」の概要について報告します。

日 時：令和2年3月27日（金）午前10時～10時45分
場 所：米子市立図書館 2階 多目的研修室
出席者：[米 子 市] 伊澤副市長
 [J R米子支社] 和田副支社長
 [鳥 取 県] 高橋統轄監、三鴨西部総合事務所県土整備局長（事務所長代理）

1 米子駅南北自由通路のデザインについて ※次ページの図1参照

米子市が令和元年度に実施した詳細設計のうち、昨年8月に行ったパブリックコメントの結果を踏まえた外装デザインの修正と県産木材を活用した内装デザインについて報告があった。
また、壁面の観光PR等への有効活用については引き続き検討していくこととした。

2 米子駅駅北広場の再整備について ※次ページの図2参照

米子駅の駅北広場の再整備については、平成30年度に「米子駅周辺活性化専門家委員会」により有識者等から意見聴取が行われたところであるが、委員会の意見やウォーカブル（居心地がよく歩きたくなるまちなか）の視点も取り入れながら、令和2年度から基本計画の策定を行うことについて米子市から報告があった。

【主な発言】

<伊澤副市長（米子市）>

- ・人が集い賑わいのある米子駅の駅北広場の整備に向けて構想を固めてまいりたい。
- ・ウォーカブルというキーワードと併せ、米子駅の地域資源としての魅力を改めて高めていきたい。
- ・駅北広場は車の乗り付けが悪いなど、交通結節点としての機能が十分に果たせていない。
- ・駅北広場は米子駅の顔であり、機能面やくつろぎ等の魅力などを最大化できるよう進めていきたい

<高橋統轄監（鳥取県）>

- ・周遊の拠点として駅の機能強化は期待するところであり、機能充実については県も一緒にやっていきたい。
- ・駅北広場についても利便性の向上やウォーカブルにしていくとの方針には賛同する。
- ・県議会からも送迎車の滞留解消や駅前の歩行者動線などに対する要望もあり、駅南の活用なども含めどのように動きをつなげて行くかが大事な問題である。

<和田副支社長（JR西日本）>

- ・駅北広場の議論もあり駅の交通結節点としての機能は深まってきていると感じている。
- ・今後は機能の強化に併せてどういう風にまちづくりをしていくか、駅前だけでなくもっと広く視野を広げたいと思っている。
- ・我々も交通事業者としてしっかりと取り組んでまいりたいと思っている。

3 本協議会の改組について

本協議会の今後のあり方について議論し、次回から本協議会の名称や体制を見直し、駅周辺等の活性化や賑わいの創出を中心とした協議の場に改組することで合意した。

4 今後の予定について

（南北自由通路・駅南広場）

令和2年度：工事着手（完成は令和4年度の予定） ※JRの新駅ビルも同時期の完成を検討中

（駅北広場）

令和2年度：基本計画策定

（※以降の予定は未定であるが、工事着手は南北自由通路整備等の完了後の令和5年度以降を想定）

図1 米子駅南北自由通路のデザイン

① 外装デザインについて

・歩行者の利便性に配慮した庇を設置し、1階部分を開放感ある形状に変更された。

② 内装について

・県から要請していた展望スペースや掲示スペースの設置及び県産材の天井部への活用が盛り込まれた。

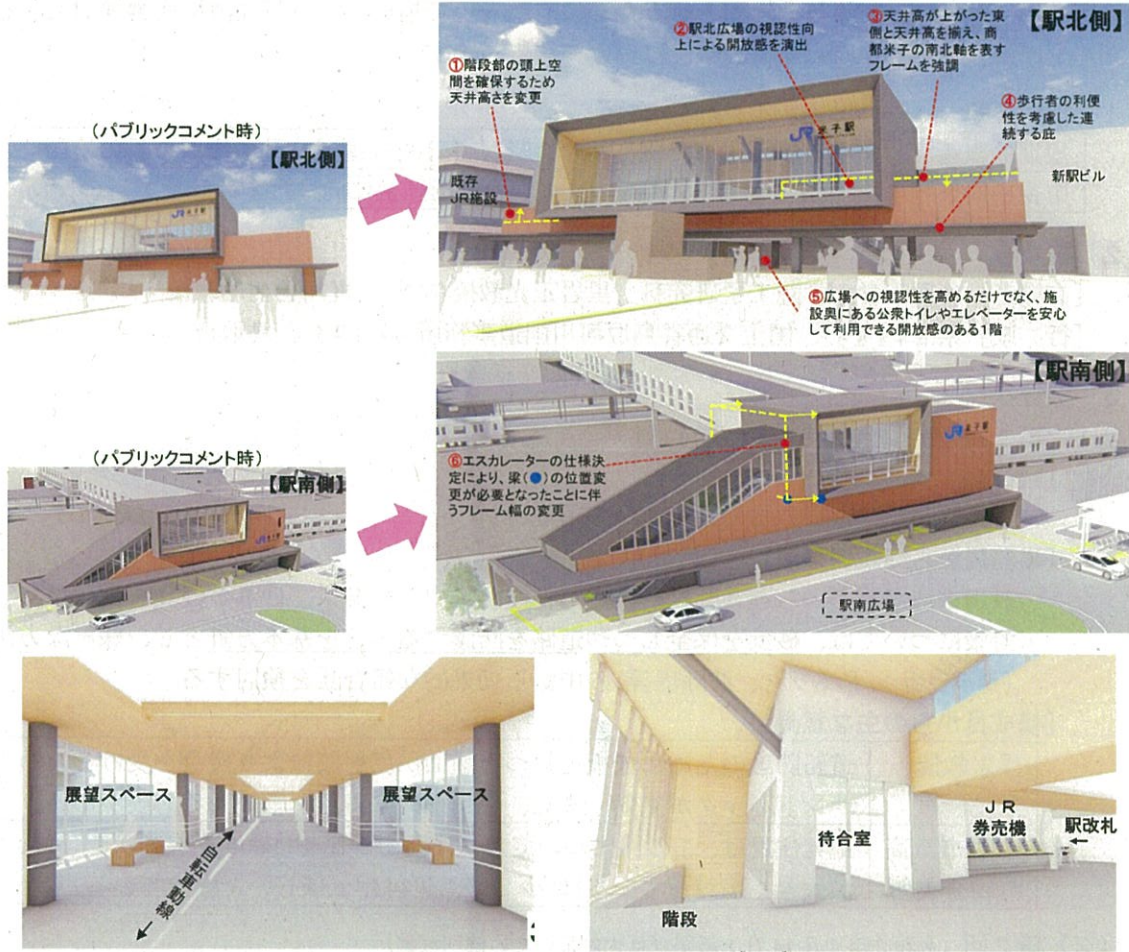


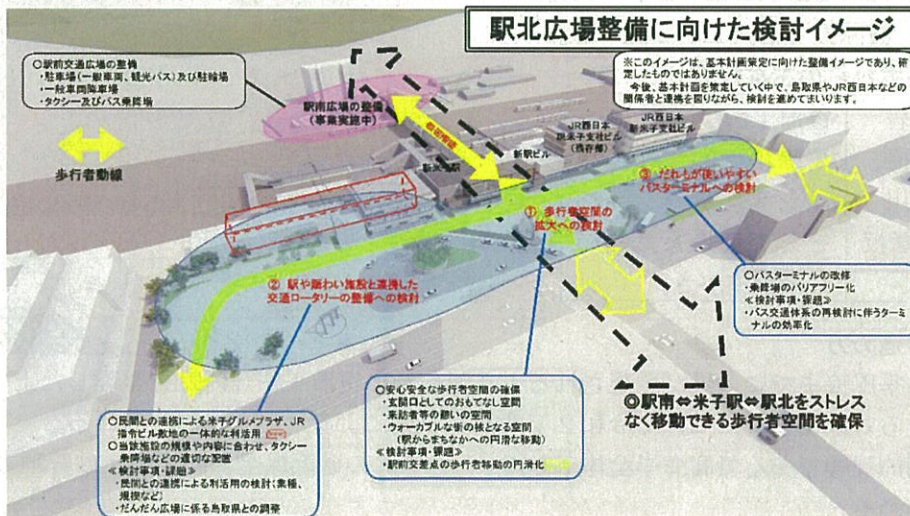
図2 米子駅駅北広場の再整備について

① 基本計画の対象範囲

・だんだん広場、交通ロータリー、バスターミナルを含む北側広場全体を対象とする。

② 基本的な取組方針

・ウォークブル（居心地が良く歩きたくなる）なまちづくりの視点を取り入れながら、「歩行者空間の拡大」「駅や賑わい施設と連携した交通ロータリーの整備」「だれもが使いやすいバスターミナル」などを柱に検討を進める予定である。



気高海岸侵食対策の検討状況について

令和2年4月21日
河川課

年末年始（令和元年12月27日～令和2年1月2日）の冬季高波浪により侵食被害が生じた気高海岸について、対策等の検討を行うために有識者等で構成する「気高海岸侵食検討会」を立ち上げましたが、現時点の検討状況について報告します。

1 検討課題

短期的課題	侵食被害が生じた気高海岸（浜村地区）及び国道9号の復旧方針の検討
中長期的課題	気高海岸全体（船磯漁港～河内川河口）の砂浜保全に向けた土砂管理方針の検討

2 構成員

[有識者] 鳥取大学大学院工学研究科 黒岩正光教授(座長)、梶川勇樹准教授
[行政] 県(海岸管理者)、国土交通省鳥取河川国道事務所(道路管理者)、鳥取市

3 開催状況

(1) 第1回（令和2年2月3日：県庁にて）

[議題]

被災原因及び復旧方法の基本方針の整理

[事務局からの説明事項]

- ・長周期波が北西から進入し反射波や沿い波が集中した結果、砂浜が侵食を受けた。
- ・対策については、砂浜を保全しつつ道路を防護することを基本方針とし、様々な方法（養浜、サンドバック、波除堤等）の中から効果的な組合せを検討する。

[構成員からの主な意見]

黒岩教授	道路防護のために矢板を打つと前面が反射波により侵食を受けるためサンドバックが有効。また、中長期的に養浜を継続する必要がある。
鳥取市気高町総合支所	地元住民は、この件について非常に関心が高く、砂浜を昔の状態(砂浜が大きく広がっている)に少しでも近づけてほしいと願っている。

(2) 第2回（令和2年4月14日：新型コロナ対策のため個別協議）

[議題]

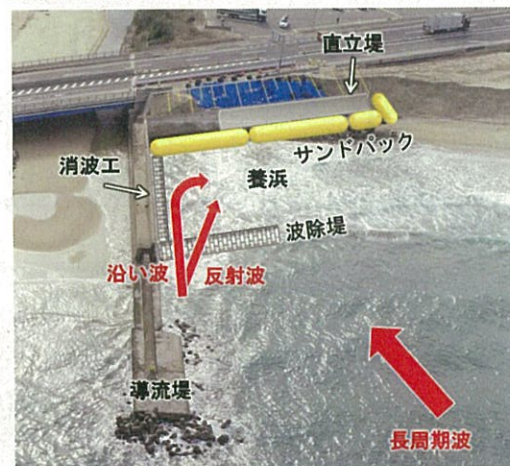
具体的な復旧工法の検討

[事務局からの説明事項]

- (国) できる限り反射波を緩和させるため、直立堤とサンドバックを設置する。
(県) 北向き波浪と沿い波への対策として、波除堤と消波工を設置する。

[有識者からの主な意見]

黒岩教授、梶川准教授	復旧工法は了解。波除堤の向きや長さ、はシミュレーションをして効果を見ながら調整すべき。
------------	---



4 今後の進め方

- ・次期冬季風浪までに効果が発現されるよう速やかに復旧工法（詳細）を整理した上で、県が分担する対策工事等について令和2年度補正予算による対応を検討している。
- ・中長期的課題である気高海岸全体（船磯漁港～河内川河口）の砂浜保全に向けた土砂管理方針の検討を進める。

大呂地区地すべりの活動及び対応について

令和2年4月21日
治山砂防課

大呂地すべりの活動及び対応について、「4月13日に発生した土砂流出」及び「第2回大呂地すべり検討会の開催結果」を報告します。

1 北股川及び県道への土砂流出

(1) 経緯

- ・かねてより崩落の危険性があるとして監視を続けてきた智頭町大呂地区の山腹において、3月16日崩落が発生（推定5～8千 m^3 ）し、斜面中腹に土砂が堆積した。
- ・4月12日～13日の大雨により、堆積土砂のうち1千 m^3 が北股川へ流入するとともに、一部は橋を経由して県道に至った。

(2) 被害状況等

- ・県道を一時全面通行止めとした。（当日13時～翌日13時）
*地元車両・緊急車両は、安全確認の上で通行可能とし、集落の孤立はなし。
- ・人的・物的被害は確認されていない。



(3) 今後の対応

- ・河川内の土砂については、速やかに撤去する。
- ・中腹に留まっている土砂の更なる流出に備え、河川護岸の背後に土砂流入の防止施設を整備予定。（補正予算による対応を検討中）
- ・抜本的対策については、「大呂地すべり検討会」において議論する予定。

2 第2回大呂地すべり検討会（3月23日開催）の結果

(1) 検討内容及び委員からの意見

- ・今後の調査計画として2箇所の調査ボーリング、地中内のひずみ量と水位の観測の早期実施等を提案し、検討会が了承。
- ・土砂崩落のシミュレーション結果（4ケース）について、対応シナリオを作成すべきとの意見。
- ・3月16日の崩落後は他の伸縮計に目立った変動は見られず、現時点において他のブロックへの影響は小さいと判断されるが、崩落によるブロック全体の安全率の低下が懸念されることから、今後も観測結果を注視する必要があるとの意見。

(2) 今後の予定

- ・今回了承された追加調査を早期に実施し、観測データを得た段階で、今後の対応方針を検討する。（令和2年秋頃を予定）
- ・今回の土砂流出も踏まえ、崩壊規模に応じた対応シナリオ（応急対応並びに恒久的対策）を整理し、次回検討会で議論する。

(3) 第2回検討会の出席者

鳥取大学名誉教授	藤村 尚（座長）
京都大学防災研究所 教授	松浦 純生
（一財）砂防・地すべり技術センター 調査役	藤平 大
智頭町芦津区 区長	武田 彰弘
智頭町芦津財産区 代表	武田 利典
智頭町 総務課長	矢部 整

*その他、八頭県土整備事務所副所長ほか



3/23 検討会の様子

智頭町大呂地すべりの観測機器配置

